

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
コミュニケーション論	文科 専門教育科目 各コース 共通	2	1	自分の言いたいことや考えを相手に伝え理解してもらうこと、あるいは相手を理解すること等の理論や技術について学んでいく。言語もしくは非言語のコミュニケーションについて多方面から学ぶことで、コミュニケーションの基礎的な知識や技術の習得を目指す。	・コミュニケーションの理論についての基礎的な知識がきちんと身につくようになる。（知識・理解） ・より豊かなコミュニケーションを図るための基本的な知識や技術がきちんと身につくようになる。（技能） ・他者とコミュニケーションするための積極的な姿勢をとれるようになる。（関心・意欲・態度）	・コミュニケーションの理論についての最低限の基礎的な知識が身につくようになる。（知識・理解） ・より豊かなコミュニケーションを図るための最低限の基礎的な知識や技術が身につくようになる。（技能） ・他者とコミュニケーションするための姿勢をとれるようになる。（関心・意欲・態度）
文章表現法	文科 専門教育科目 各コース 共通	2	1	他者に「提出」する文章に、求められるものは何か。先行研究など他者の手による文章・データと、どう対峙すればよいのか——これらを身近なテーマや資料を用いて体得し、さらに「書く」目的に応じた語彙・表現を確認しながら、日本語表現についても考察を深め、文章資料の読解・分析の基本を習得する。読み手のために最適な伝達方法を選択・実践できるようになることを目指す。	・論文等の文章を読んでその文章の主題や構成をきちんと把握出来るようになる。（知識・理解） ・自分の意見や考えを他者に正確に伝えるための基本的な知識や技術をきちんと習得し、実践できるようになる。（技能） ・レポート等の文章で自分の意見を述べていくための、問題意識、構成力、表現力等をきちんと習得し、実践できるようになる。（判断・思考・表現）	・論文等の文章を読んでその文章の主題や構成を把握出来るようになる。（知識・理解） ・自分の意見や考えを他者に正確に伝えるための最低限の基礎的な知識や技術を習得し、実践できるようになる。（技能） ・レポート等の文章で自分の意見を述べていくための最低限の、問題意識、構成力、表現力等を習得し、実践できるようになる。（判断・思考・表現）
伝える技術	文科 専門教育科目 各コース 共通	2	1・2	自分の考えや意見を相手に効率的に伝えるための知識や技術について学んでいく授業である。基本的なこととして、伝えるべき内容の理解、整理スルことから始め、それを的確に伝えるための工夫や方法について学んでいく。原稿の整理、読む練習、伝達するためのツールの用意などをしながらプレゼンテーションの基礎的な技術を身につける。	・自分の考えや意見を理解し簡潔に整理する事がきちんとできるようになる。（知識・理解） ・自分の考えや意見を他人に伝える為のより効果的で効率的な伝達の基礎的な技術をきちんと習得し、実践できるようになる。（判断・思考・表現） ・プレゼンテーションの基礎的な技術をきちんと身につけることができている。（技能）	・自分の考えや意見を理解し簡潔に整理する事ができるようになる。（知識・理解） ・自分の考えや意見を他人に伝える為のより効果的で効率的な最低限の基礎的な伝達の技術を習得し、実践できるようになる。（判断・思考・表現） ・プレゼンテーションの伝達の最低限の基礎的な技術を身につけることができている。（技能）
伝統文化論	文科 専門教育科目 各コース 共通	2	1・2	日本の伝統文化を、歴史、文学、絵画、芸能等多様なジャンルを通して学ぶことで、日本の文化への知識と理解を深める。日本の文化について教養を身につけることで、国際化の中で日本人として日本の文化を語れるような教養を身につける。	・日本の伝統文化の多様なジャンルを学ぶことで、日本の伝統文化についての一定の知識を語ることが出来るようになる。（知識・理解） ・日本の伝統文化についての話題で外国の人と交流が出来るようになる。（関心・意欲・態度）	・日本の伝統文化の多様なジャンルを学ぶことで、日本の伝統文化についての最低限の知識を語ることが出来るようになる。（知識・理解） ・日本の伝統文化についての話題で外国の人とある程度の交流が出来るようになる。（関心・意欲・態度）
地域文化論	文科 専門教育科目 各コース 共通	2	1・2	日本もしくは外国のある地域の文化を学ぶことで、その地域を深く理解し、またわたしたちの住む地域と比較することで、文化の普遍性といったものを学んでいく。特定の地域の文化を深く理解することで、そこから他者が暮らす文化を知ることの大事さを感じることが出来れば、異文化への理解にもつながっていく。自分たちとは異なる地域や文化への理解を深めていく。	・授業の内容を深く理解し、授業で取り上げた地域の文化について一定の知識を身につけられるようになる。（知識・理解） ・自分たちとは異なる地域文化もしくは異文化について積極的に理解する姿勢を身につけられるようになる。（関心・意欲・態度）	・授業の内容を深く理解し、授業で取り上げた地域の文化について最低限の知識を身につけられるようになる。（知識・理解） ・自分たちとは異なる地域文化もしくは異文化について理解する姿勢を身につけられるようになる。（関心・意欲・態度）
こども文化論	文科 専門教育科目 各コース 共通	2	1・2	児童文学を中心にして近・現代の子ども文化を考察する。児童文学は、子どもをめぐる状況を映す鏡であり、作品の読みを通じて、近・現代の子どもをめぐる問題についても考える。また文学以外の諸分野の作品も扱っていく。子ども文化史や児童文学史をテキストに使いながら、評価の高い作品を多く取りあげ、日本の近代が作りあげてきた子ども文化を理解する。	・子どもの文化というものについて考える手がかりを得ることが出来るようになる。（関心・意欲・態度） ・子ども文化の一例としての児童文学の成り立ちについて、明治の古典的作品から現代の作品まで広く対象にしながらしっかりと理解を深めることが出来るようになる。（知識・理解） ・児童文学を学ぶことを通して、子どもがどのような状況におかれていたのか、家族のあり方はどのようなだったのかを合わせて深く理解出来るようになる。（知識・理解） ・児童文学が、子どもをめぐる状況を映し出す鏡であることを実感出来るようになる。（思考・判断・表現）	・子どもの文化というものについて考える手がかりをある程度得ることが出来るようになる。（関心・意欲・態度） ・子ども文化の一例としての児童文学の成り立ちについて、明治の古典的作品から現代の作品まで広く対象にしながらある程度の理解を深めることが出来るようになる。（知識・理解） ・児童文学を学ぶことを通して、子どもがどのような状況におかれていたのか、家族のあり方はどのようなだったのかを合わせてある程度理解出来るようになる。（知識・理解） ・児童文学が、子どもをめぐる状況を映し出す鏡であることを何とか実感出来るようになる。（思考・判断・表現）
ジェンダー論	文科 専門教育科目 各コース 共通	2	1・2	社会には、女性と男性についての固定化されたイメージがある。テレビや、映画、新聞雑誌、文芸作品など、様々なメディアが再生産する「女性像」「男性像」あるいは理想とする「女らしさ」「男らしさ」をわれわれは無条件に受け入れ、それに縛られていることが多い。この授業ではそうしたイデオロギーの歴史性を問いなおし、女性の新たな生き方の方向を探る。	・生物学的性差に対して社会的性差を指すジェンダーが、いかに文化的に作り上げられているかをしっかりと問い直すことが出来るようになる。（関心・意欲・態度） ・それをとらえて、一人の人間として、セクシャル・アイデンティティを保ちながらどう生きていったらいいかの考えをしっかりと深めることが出来るようになる。（思考・判断・表現）	・生物学的性差に対して社会的性差を指すジェンダーが、いかに文化的に作り上げられているかをある程度問い直すことが出来るようになる。（関心・意欲・態度） ・それをとらえて、一人の人間として、セクシャル・アイデンティティを保ちながらどう生きていったらいいかの考えを深めることが出来るようになる。（思考・判断・表現）
映像メディア論	文科 専門教育科目 各コース 共通	2	1・2	この授業では、様々な映像メディアを利用したドキュメンタリーやコメディ、CM、アニメなどの映像事例を紹介し、それらを通して、受講生の研究活動や卒業後に必要になってくる映像メディアの見方・利用のスキルを養う。また講義解説だけでなくグループディスカッションを通じて、同じ映像をみて他のひとがどうとらえるかを知る機会をつくり、映像メディアに対して「では自分はどうすればよいのか」をより実際に考えらる力を身につける。	・ドキュメンタリーやコメディ、CM、アニメなどの様々な映像メディアの見方、利用のスキルをしっかりと習得できるようになる。（知識・理解） ・映像メディアの情報に対する問題点やそれについての考え方をしっかりと身につけられるようになる。（思考・判断・表現）	・ドキュメンタリーやコメディ、CM、アニメなどの様々な映像メディアの見方、利用のスキルをある程度習得できるようになる。（知識・理解） ・映像メディアの情報に対する問題点やそれについての考え方をある程度身につけられるようになる。（思考・判断・表現）

科目名	科目区分	単位	学年		到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
出版メディア論	文科 専門教育科目 各コース 共通 生活科学科 専門教育科目 メディア社会コース	2	1・2	本の出版の歴史や実際、あるいは本そのものにかかわる文化を学んでいく授業。出版文化を通して本が成り立っていくプロセスを学ぶ。あるいは、本にかかわる文化や歴史を通して、本が果たす人間や社会における意義について考えていく。	・授業の内容を深く理解し、出版文化についての一定の知識をしっかりと習得できるようになる。(知識・理解) ・本に関わる文化に積極的な関心をいだくことができるようになる。(関心・意欲・態度)	・授業の内容を深く理解し、出版文化についての一定の知識を習得できるようになる。(知識・理解) ・本に関わる文化に関心をいだくことができるようになる。(関心・意欲・態度)
環境文化論	文科 専門教育科目 各コース 共通	2	1・2	自然と文明、もしくは自然と人間の関わりが学問のテーマとして取り上げられるようになってきていることを踏まえ、人間が、環境としての自然を文化としてどのようにとらえ、またどうつきあってきたのかを考察する。具体的には、神話、文学、祭祀等に環境としての自然がどのように描かれあるいは扱われているのかを学んでいく。	・人間が、環境としての自然を文化としてどのようにとらえ、またどうつきあってきたのかについての多くの知見を得ることができるようになる。(知識・理解) ・神話、文学、祭祀等に環境としての自然がどのように描かれあるいは扱われているのかについての多くの知識を有することができるようになる。(知識・理解)	・人間が、環境としての自然を文化としてどのようにとらえ、またどうつきあってきたのかについての基本的な知見を得ることができるようになる。(知識・理解) ・神話、文学、祭祀等に環境としての自然がどのように描かれあるいは扱われているのかについての基本的な知識を有することができるようになる。(知識・理解)
からだ健康	文科 専門教育科目 各コース 共通	2	1・2	健康の維持・増進のためには、正しい知識を身につけ、心身の健康を自ら管理するために必要な情報を取捨選択できることが必要である。自分自身のからだの機能について理解するとともに、健康問題について考察する。健康の維持・増進のために必要なことは何かを知り、改善策を考え生活の中で実践していくための基本的な知識と技能を身につける。	・基本的なからだの機能を理解し、心身の健康を守り管理していくために何が必要か考え、具体的に説明することができる。(知識・理解) ・女性特有の健康問題について理解し、健康状態の維持・増進、疾病予防の改善策について考察し説明することができる。(知識・理解) (思考・表現) ・健康に関する正しい知識の習得を図り、ヒトを取り巻く健康問題について多面的に関心を持ち、考察することができる。(知識・理解) (思考) ・基本的な応急手当について理解し、技術を習得できる。(知識) (技能) ・自分自身の生活習慣について分析・考察し、どのように改善するべきか理解し具体的に述べるができる。(知識・理解) (思考・判断・表現)	・基本的なからだの機能を理解し、健康的な生活を送るために何が必要か理解できる。(知識・理解) ・女性特有の健康問題について理解し、健康状態を維持・増進、疾病予防の改善策を基礎的選択肢から選んで説明することができる。(知識・理解) (思考・表現) ・健康に関する正しい知識の習得を図り、ヒトを取り巻く健康問題について関心を持ち、考察することができる。(知識・理解) (思考) ・基本的な応急手当について理解し、技術をおおいた習得できる。(知識) (技能) ・自分自身の生活習慣について分析・考察し、どのように改善するべきか基本的視点で述べるができる。(知識・理解) (思考・判断・表現)
東京学	文科 専門教育科目 各コース 共通	2	1・2	東京にやってくる国内外の観光客からガイドに求められることはただの道案内ではない。過去の東京や江戸の姿、そこに存在した文化についての解説が求められる。つまり現在の東京をガイドするためには、江戸・過去の東京・現在の東京の景観・文化を理解する必要がある。そこで歌川広重の『名所江戸百景』を手がかりとし、そこに描かれた名所の歴史を調査する方法を身につけることにより、江戸・東京の名所をガイドできるようになることを目標とする。	講義の内容を十分に理解し、選択した『名所江戸百景』の名所について、江戸の当時から現在までの変遷を十分に調査するとともに、説明することができる(知識・理解・表現)。	講義の内容を理解し、選択した『名所江戸百景』の名所について、江戸の当時から現在までの変遷を調査するとともに、説明することができる(知識・理解・表現)。
観光英語を学ぶ I	文科 専門教育科目 各コース 共通	2	1・2	海外旅行用のリスニング教材を用いて、英語のリスニング力の向上を目指しなら、海外旅行の典型的な場面(入国、税関、両替、空港、ホテル、レストランなど)での英語表現を学ぶ。また、様々な練習問題を通して、必要最低限の会話だけでなく、コミュニケーションに役立つ表現も学ぶ。	・海外旅行に必要な英語表現を身につけ、英語で的確にコミュニケーションを取ることができる。 ・空港、交通、ホテル、観光、ショッピング等の場面で英語を正確に解釈できる。 ・観光英語検定の取得に必要な、旅行・観光の分野における英語の運用能力(英語での接客、外国人への道案内、英語によるパンフレット類の説明を含む)を的確に使用できる。	・海外旅行に必要な英語表現を身につけ、英語である程度コミュニケーションを取ることができる。 ・空港、交通、ホテル、観光、ショッピング等の場面で英語をある程度解釈できる。 ・観光英語検定の取得に必要な、旅行・観光の分野における英語の運用能力(英語での接客、外国人への道案内、英語によるパンフレット類の説明を含む)をある程度使用できる。
観光英語を学ぶ II	文科 専門教育科目 各コース 共通	2	1・2	観光英語 I よりも高度な内容のテキストを使用し、英語のリスニング力の向上を目指しなら、海外旅行の典型的な場面(入国、税関、両替、空港、ホテル、レストランなど)での英語表現を学ぶ。また、様々な練習問題を通して、必要最低限の会話だけではなく、コミュニケーションに役立つ表現も学ぶ。	・海外旅行に必要な英語表現を身につけ、英語で的確にコミュニケーションを取ることができる。 ・空港、交通、ホテル、観光、ショッピング等の場面で英語を正確に解釈できる。 ・観光英語検定の取得に必要な、旅行・観光の分野における英語の運用能力(英語での接客、外国人への道案内、英語によるパンフレット類の説明を含む)を的確に使用できる。	・海外旅行に必要な英語表現を身につけ、英語である程度コミュニケーションを取ることができる。 ・空港、交通、ホテル、観光、ショッピング等の場面で英語をある程度解釈できる。 ・観光英語検定の取得に必要な、旅行・観光の分野における英語の運用能力(英語での接客、外国人への道案内、英語によるパンフレット類の説明を含む)をある程度使用できる。
漢字を学ぶ	文科 専門教育科目 各コース 共通	2	1・2	漢字とは単なる表音記号ではなく、ひとつひとつ意味を持った文字であり、様々な時代的文化的な背景をもとにできあがっている。この授業では漢字を書くあるいは読む力をつけるとともに、毎回いろいろな角度から漢字を採りあげ、その成り立ちや文化的背景を学んでいく。	・基本的な漢字が書けるようになり、識字能力を高めることができるようになる。(技能) ・漢字の歴史、文化的背景や日本における漢字の受容などについての総合的な知識を身につけることができるようになる。(知識・理解)	・最低限の基本的な漢字が書けるようになり、識字能力をある程度高めることができるようになる。(技能) ・漢字の歴史、文化的背景や日本における漢字の受容などについてのある程度の知識を身につけることができるようになる。(知識・理解)
秘書実務を学ぶ I	文科 専門教育科目 各コース 共通	2	1・2	一人の大人として自立して生きる【キャリア】を若き日にデザインすることの大切さを理解し、「仕事をするときには組織の中でなくてはならない人財としてのワークキャリア」「家庭生活では幸せなライフキャリア」のデザインをする、社会人へ近づく意思・行動を学ぶ。また、授業では、仕事全般を網羅しているといわれる「秘書実務」を事例に社会との関わり方を学び、併せて「秘書検定」資格取得も目指す。	・一人の大人として自立して生きる自分のキャリアについてのデザインがしっかりと出来るようになる。(思考・判断・表現) ・仕事や家庭生活で自分がどのように働き、またどのような家庭生活を作っていくのかについてしっかりと考えられるようになる。(関心・意欲・態度) ・秘書実務についての検定試験に必要な知識を十分に習得出来るようになる。(知識・理解)	・一人の大人として自立して生きる自分のキャリアについてのデザインがある程度出来るようになる。(思考・判断・表現) ・仕事や家庭生活で自分がどのように働き、またどのような家庭生活を作っていくのかについてある程度考えられるようになる。(関心・意欲・態度) ・秘書実務についての検定試験に必要な知識をある程度習得出来るようになる。(知識・理解)
秘書実務を学ぶ II	文科 専門教育科目 各コース 共通	2	1・2	「秘書実務に学ぶ I」に続く科目である。この授業では、キャリアデザインや「秘書実務」に関するテーマについて、自分なりに概要をまとめ、キーワードを認識した上で、ワークシートに書き込み単位ごとに完結編を作成していく。友人と相互に評価しあい、ミスに気づき、完成度を高める協働学習を重視する。就職活動に直接つながる能力の育成と、就職後も社会人の必須良識として役立つ「秘書実務」の知識の習得を目指す。	・授業に自から進んで主体的に参加し、他の学生と協力しあって「ワーク」をすすめる事が出来るようになる。(関心・意欲・態度) ・社会人としてあるいは職業者としての基本的なマナーや知識を習得出来るようになる。(知識・理解) ・秘書検定 2 級程度の知識を得ることが出来るようになる。(知識・理解)	・授業に主体的に参加し、他の学生と協力しあって「ワーク」をすすめる事が出来るようになる。(関心・意欲・態度) ・社会人としてあるいは職業者としての最低限の基本的なマナーや知識を習得出来るようになる。(知識・理解) ・秘書検定 2 級程度の最低限の知識を得ることが出来るようになる。(知識・理解)

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
キャリアデザイン演習	文科 専門教育科目 各コース 共通	2	1	卒業後の進路について、学生自身が具体的な将来像を思い描き、その実現に向けて必要とされる知識やスキル、また、自己理解やコミュニケーションの力を、演習形式で学んでいく。	<ul style="list-style-type: none"> <li>卒業後の進路について、具体的な将来像を思い描くことができるようになる。（思考・判断・表現）</li> <li>将来像の実現に向けて必要とされる知識やスキル、特に就職活動に必要な知識やスキルを十分に身につけている。（技能）</li> <li>自己理解やコミュニケーションの力を十分に身につけている。（関心・意欲・態度）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>卒業後の進路について、将来像を思い描くことができるようになる。（思考・判断・表現）</li> <li>将来像の実現に向けて必要とされる知識やスキル、特に就職活動に必要な基礎的な知識やスキルを身につけている。（技能）</li> <li>自己理解やコミュニケーションの力をある程度身につけている。（関心・意欲・態度）</li> </ul>
キャリアアクティブラーニング	文科 専門教育科目 各コース 共通 生活科学科 専門教育科目 各コース 共通	2	2	就職活動に必要なとされる、文章力、思考力、コミュニケーション力、発信力などをより実践的に習得する。グループワークなどのアクティブラーニングを通して身につけていく。	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会人になるための自己分析がしっかりと出来ている。（知識・理解）</li> <li>社会人としての将来のビジョンをしっかりと身につけている。（知識・理解）</li> <li>社会人になるための、文章力、思考力、コミュニケーション力、発信力などをしっかりと身につけることが出来ている。（判断・思考・表現）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会人になるための自己分析がある程度出来ている。（知識・理解）</li> <li>社会人としての将来のビジョンを身につけている。（知識・理解）</li> <li>社会人になるための最低限の、文章力、思考力、コミュニケーション力、発信力などを身につけることが出来ている。（判断・思考・表現）</li> </ul>
ことばの仕組み I	文科 専門教育科目 日本文学・表現コース	2	1・2	この授業では、日常的な日本語を例に、「文法」とは何か、文法以外にどのようなことばの仕組みがあるのかということ、わかりやすい例で考えながら、「ことば」とはどのようなもので、どのように使われているのか、ということについて学んでいく。	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業を通して、ことばが伝達されるためのことばの仕組みについて基本的な仕組みや規則についてしっかりと理解出来るようになる。（知識・理解）</li> <li>ことばの仕組みについての積極的な関心を持つことができるようになる。（関心・意欲・態度）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業を通して、ことばが伝達されるためのことばの仕組みについて基本的な仕組みや規則についてある程度理解出来るようになる。（知識・理解）</li> <li>ことばの仕組みについて関心を持つことができるようになる。（関心・意欲・態度）</li> </ul>
ことばの仕組み II	文科 専門教育科目 日本文学・表現コース	2	1・2	私たちが日常的に行っているコミュニケーションの中で、もっとも重要で複雑なものがことばによるコミュニケーション（話す/聞く、書く/読む）は、語（単語）をルールに従って使うことによって成り立っているが、そのルールのなかでも、語から「文」を組み立てることは、最も重要なものの一つである。この授業では、語から文を組み立てるとはどのようなことであるのかを中心テーマの一つとして、ことばのルール、伝達の中でのことばの「意味」について学んでいく。	<ul style="list-style-type: none"> <li>ある出来事を伝達する手段としてのことばについての役割やその組み立て方について基本的な知識を有することができるようになる。（知識・理解）</li> <li>また、その基本的なことばの役割や仕組みについて、現代日本語の具体例を通して理解出来るようになる。（知識・理解）</li> <li>言葉の仕組みや現代日本語について積極的な関心を抱くことができるようになる。（関心・意欲・態度）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ある出来事を伝達する手段としてのことばについての役割やその組み立て方について基本的な知識を最低限有することができるようになる。（知識・理解）</li> <li>また、その基本的なことばの役割や仕組みについて、現代日本語の具体例を通して最低限理解出来るようになる。（知識・理解）</li> <li>言葉の仕組みや現代日本語についてある程度関心を抱くことができるようになる。（関心・意欲・態度）</li> </ul>
現代のことば I	文科 専門教育科目 日本文学・表現コース	2	1・2	現代日本語を検討対象にして、言語学とはどのようなものであるか、またどうあるべきかを考える。まずは言語と言語学そして日本語学について概説し、そのうえで、世界の諸言語と比べた際の日本語の特徴について学ぶ。具体的には現代日本語を例にあげながら、現代日本語、特に若者ことばの傾向や特徴について考察していく。	<ul style="list-style-type: none"> <li>言語学に必要な観点を習得し、様々な観点で自分が使っている日本語と他人が使っている日本語を比較する態度を身につけることができている。（関心・意欲・態度）</li> <li>ことばをことばで説明することの難しさや楽しさを味わうことができるようになる。（知識・理解）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>言語学に必要な観点を習得し、様々な観点で自分が使っている日本語と他人が使っている日本語を比較する態度をある程度身につけることができている。（関心・意欲・態度）</li> <li>ことばをことばで説明することの難しさや楽しさについてある程度味わうことができるようになる。（知識・理解）</li> </ul>
現代のことば II	文科 専門教育科目 日本文学・表現コース	2	1・2	言語学の観点から現代日本語の文法について概説する授業である。概説を通して、何故、わたしたちが自分自身の言語である現代日本語をほとんど何の苦勞もなく使いこなすことができるのかを理解し、また言語を使用する能力とその言語について理解することの違いについて再認識し、高度な言語使用のための言語の仕組みを把握する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>現代の日本語の文法を学ぶための基本的な考え方をしっかりと理解できるようになる。（知識・理解）</li> <li>基本的な文法の知識をしっかりと有している。（知識・理解）</li> <li>言語にとっての文法の持つ意味についてしっかりと理解できるようになる。（思考・判断・表現）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現代の日本語の文法を学ぶための基本的な考え方をある程度理解できるようになる。（知識・理解）</li> <li>基本的な文法の知識をある程度有している。（知識・理解）</li> <li>言語にとっての文法の持つ意味についてある程度理解できるようになる。（思考・判断・表現）</li> </ul>
古典文学を読む I	文科 専門教育科目 日本文学・表現コース	2	1	古典文学作品の原文を時間をかけて読み進める中で、「知っているつもり」だったが「つもり」でしかなかったことに気づき、新しい発見に満ちた古典作品の魅力味わう授業である。現代と古典作品の時代との生活や習慣、価値観の違いを学ぶ一方、感じ方や人を思う気持ちが同じことに改めて気づき、文学作品の可能性と奥深さを学んでいく。	<ul style="list-style-type: none"> <li>古典の原文に触れて、そのことばと内容とを深く理解し、現代の小説を読むように楽しんで読めるようになる。（知識・理解）</li> <li>話の筋や展開だけではなく、歴史的な時代の習俗や風俗を学ぶことで、普通に思える現代の価値観や生活観が、時代と共に変化するものだとより深く理解できるようになる。（知識・理解）</li> <li>文学としての古典作品が時代を超えた人間の普遍的な姿を描いていることを深く理解出来るようになる。（知識・理解）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>古典の原文に触れて、基本的なそのことばと内容とを理解し、現代の小説を読むように楽しんで読めるようになる。（知識・理解）</li> <li>話の筋や展開だけではなく、歴史的な時代の習俗や風俗を学ぶことで、普通に思える現代の価値観や生活観が、時代と共に変化するものだと一定程度理解できるようになる。（知識・理解）</li> <li>文学としての古典作品が時代を超えた人間の普遍的な姿を描いていることを一定程度理解出来るようになる。（知識・理解）</li> </ul>
古典文学を読む II	文科 専門教育科目 日本文学・表現コース	2	1	中学・高校の古典授業で取り上げられるような著名な作品でも、時間をかけて読めば、新しい発見に満ちる。その作品が持っている多くの謎をひとつずつ解いてゆく授業である。「真実のそらごと」である「物語」や、不思議な出来事を描く「説話」、人間の心情を抒情的に描く和歌等、古典作品の創造性や豊かな世界を鑑賞していく。	<ul style="list-style-type: none"> <li>古典の原文に触れて、そのことばと内容とを深く理解できるようになる。（知識・理解）</li> <li>古典作品をより深く楽しんで読めるようになる。（知識・理解）</li> <li>作品の筋や展開だけではなく、その作品を生み出した「時代」を知り、時代の習俗や風俗を学ぶことで、古典作品をより深く多角的に理解出来るようになる。（知識・理解）</li> <li>古典作品を通して現代の価値観や生活観を振り返りそこから変化するものや変わらないものを具体的に理解できるようになる。（知識・理解）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>古典の原文に触れて、基本的なそのことばと内容とを理解できるようになる。（知識・理解）</li> <li>古典作品を楽しんで読めるようになる。（知識・理解）</li> <li>作品の筋や展開だけではなく、その作品を生み出した「時代」を知り、時代の習俗や風俗を学ぶことで、古典作品を一定程度理解出来るようになる。（知識・理解）</li> <li>古典作品を通して現代の価値観や生活観を振り返りそこから変化するものや変わらないものを一定程度理解できるようになる。（知識・理解）</li> </ul>

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
近代現代文学を読むⅠ	文科 専門教育科目 日本文学・表現コース	2	1	近代文学の作品を取り上げ精読することをとおして、時代背景、表現の方法、文化的コンテキスト、作家の思想、文学的な主題を理解する。また、小説を読むための技法を学び、今後の読書生活の幅を広げる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本の近代文学を味読するための基礎力を身につけることができるようになる。（知識・教養）</li> <li>また、日本の近代文学についての基礎的教養をやしなうことができるようになる。（知識・教養）</li> <li>文学を楽しむことをとおして、自分を見つめ直す力を育み、さらに日本人の感性についての理解を深めることができるようになる。（知識・教養）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本の近代文学を味読するための基礎力を身につけることができるようになる。（知識・教養）</li> <li>また、日本の近代文学についての基礎的教養をやしなうことができるようになる。（知識・教養）</li> <li>文学を楽しむことをとおして、自分を見つめ直す力を育み、さらに日本人の感性についての理解を深めることができるようになる。（知識・教養）</li> </ul>
近代現代文学を読むⅡ	文科 専門教育科目 日本文学・表現コース	2	1	近代文学の作品を取り上げ精読することをとおして、時代背景、表現の方法、文化的コンテキスト、作家の思想、文学的な主題を理解する。また、小説を読むための技法を学び、今後の読書生活の幅を広げる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本の近代文学を味読するための基礎力を身につけることができるようになる。（知識・教養）</li> <li>また、日本の近代文学についての基礎的教養をやしなうことができるようになる。（知識・教養）</li> <li>文学を楽しむことをとおして、自分を見つめ直す力を育み、さらに日本人の感性についての理解を深めることができるようになる。（知識・教養）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本の近代文学を味読するための基礎力を身につけることができるようになる。（知識・教養）</li> <li>また、日本の近代文学についての基礎的教養をやしなうことができるようになる。（知識・教養）</li> <li>文学を楽しむことをとおして、自分を見つめ直す力を育み、さらに日本人の感性についての理解を深めることができるようになる。（知識・教養）</li> </ul>
古典文学の研究Ⅰ	文科 専門教育科目 日本文学・表現コース	2	2	この授業では、古典文学の基礎的知識に基づいて、当時の社会性を理解すると共に、文学の持つ有用性についても考察できる力を養う。現在文学といえは多様な文章術の一つとしか見ない人もいるが、かつては文章自体が威力を持つこともあった。文学はその時代にどのような役割を果たしたのか、読解する中から気づいてゆきたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>古典の原文に触れて、そのことばと内容とを深く理解できるようになる。（知識・理解）</li> <li>和歌のことばや題材、詠みぶりといった韻文特有のことば・表現に詳しい知識を有することができるようになる。（知識・理解）</li> <li>自分なりのテーマで和歌を使つての表現ができるようになる。その際、受講者全員の前で映像や音を用いて効果的な発表ができるようになる。（思考・判断・表現）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>古典の原文に触れて、その基本的なことばと内容とを理解できるようになる。（知識・理解）</li> <li>和歌のことばや題材、詠みぶりといった韻文特有のことば・表現に親しむことができるようになる。（知識・理解）</li> <li>自分なりのテーマで和歌を使つての表現ができるようになる。その際、受講者全員の前で発表ができるようになる。（思考・判断・表現）</li> </ul>
古典文学の研究Ⅱ	文科 専門教育科目 日本文学・表現コース	2	2	長い重厚な文学が大きな内容を持つとは限らない。量は少なくてもその背後に大きな時代の現実を見させてくれる作品も多い。いわば小さな窓を開いて広い外界を眺めるようなものだ。古典文学の小さな作品から、当時の現実を読み取る。ことばとその補助資料から立体的に文学の描く世界を読み解く授業である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>古典の原文に触れて、そのことばと内容とを深く理解できるようになる。（知識・理解）</li> <li>説話特有の文脈展開がわかり、物語や随筆など他の文体を持つ文学との差異を理解できるようになる。（知識・理解）</li> <li>当時の地図や絵画、また日記や文書といった史料が、文学の理解の上で不可欠であることを具体的に知るようになる。（知識・理解）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>古典の原文に触れて、そのことばと内容とを理解できるようになる。</li> <li>説話特有の文脈やはなしの展開の早さを理解できるようになる。（知識・理解）</li> <li>当時の地図や絵画、また日記や文書といった史料がおもしろいということを知るようになる。（知識・理解）</li> </ul>
近代現代文学の研究Ⅰ	文科 専門教育科目 日本文学・表現コース	2	2	近代文学の作品を取り上げ精読することをとおして、時代背景、表現の方法、文化的コンテキスト、作家の思想、文学的な主題を理解する。また、近代文学の研究方法を学び、自分なりに文学を読み深める実践的なノウハウを身につける。	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本の近代文学を味読するための応用力を身につけることができるようになる。（知識・教養）</li> <li>また、日本の近代文学についての教養を深めることができるようになる。（知識・教養）</li> <li>文学作品を読むことをとおして自分を見つめ直し、感性を磨くと同時に言語能力を高めることができるようになる。（知識・教養）</li> <li>自らすすんで文学に関わろうとする問題意識も養うことができるようになる。（知識・教養）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本の近代文学を味読するための応用力を身につけることができるようになる。（知識・教養）</li> <li>また、日本の近代文学についての教養を深めることができるようになる。（知識・教養）</li> <li>文学作品を読むことをとおして自分を見つめ直し、感性を磨くと同時に言語能力を高めることができるようになる。（知識・教養）</li> <li>自らすすんで文学に関わろうとする問題意識も養うことができるようになる。（知識・教養）</li> </ul>
近代現代文学の研究Ⅱ	文科 専門教育科目 日本文学・表現コース	2	2	近代文学の作品を取り上げ精読することをとおして、時代背景、表現の方法、文化的コンテキスト、作家の思想、文学的な主題を理解する。また、近代文学の研究方法を学び、自分なりに文学を読み深める実践的なノウハウを身につける。	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本の近代文学を味読するための応用力を身につけることができるようになる。（知識・教養）</li> <li>また、日本の近代文学についての教養を深めることができるようになる。（知識・教養）</li> <li>文学作品を読むことをとおして自分を見つめ直し、感性を磨くと同時に言語能力を高めることができるようになる。（知識・教養）</li> <li>自らすすんで文学に関わろうとする問題意識も養うことができるようになる。（知識・教養）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本の近代文学を味読するための応用力を身につけることができるようになる。（知識・教養）</li> <li>また、日本の近代文学についての教養を深めることができるようになる。（知識・教養）</li> <li>文学作品を読むことをとおして自分を見つめ直し、感性を磨くと同時に言語能力を高めることができるようになる。（知識・教養）</li> <li>自らすすんで文学に関わろうとする問題意識も養うことができるようになる。（知識・教養）</li> </ul>
日本文学の歴史	文科 専門教育科目 日本文学・表現コース	4	1・2	日本における幾つかの文学作品を通して、日本文学の流れを理解し、その作品を生んだ時代背景や、言語表現の歴史等を学び、文学作品を多角的に読む力や、分析する力を獲得する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業で扱う分野における日本文学の歴史について詳しく説明出来る知識を獲得出来る。（知識・理解）</li> <li>文学作品の生まれる歴史的な背景について深く分析する力が身につけている。（知識・理解）</li> <li>歴史的な背景を踏まえて文学作品を多角的に分析する力が身につけている。（知識・理解）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業で扱う分野における日本文学の歴史について一定の説明が出来る知識を獲得出来る。（知識・理解）</li> <li>文学作品の生まれる歴史的な背景について一定程度の分析する力が身につけている。（知識・理解）</li> <li>歴史的な背景を踏まえて文学作品を一定程度分析する力が身につけている。（知識・理解）</li> </ul>
文学とことばのセミナー	文科 専門教育科目 日本文学・表現コース	2	1	授業を通して自分の研究テーマを見つけ、そのテーマについて調べ発表し、最後にレポートを完成することを目標とする。文学やことばについてのより深い知識を習得し、またそれについての意見や考えを述べる力、レポートを完成させる力を養っていく。	<ul style="list-style-type: none"> <li>文学やことばについて、研究すべき自分のテーマを明確に見つけ出すことができるようになる。（思考・判断・表現）</li> <li>文学やことばについてより深い知識を身につけることができている。（知識・理解）</li> <li>自分のテーマについて説得力ある意見を述べ、また他人の発表について積極的に意見を述べる事ができるようになる。（関心・意欲・態度）</li> <li>レポートの書き方がしっかりと身につけている。（技能）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文学やことばについて、研究すべき自分のテーマを見つけ出すことができるようになる。（思考・判断・表現）</li> <li>文学やことばについて基本的な知識を身につけることができている。（知識・理解）</li> <li>自分のテーマについて意見を述べ、また他人の発表について意見を述べる事ができるようになる。（関心・意欲・態度）</li> <li>基本的なレポートの書き方が身につけている。（技能）</li> </ul>

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
文学とことばの卒業セミナー	文科 専門教育科目 日本文学・表現コース	4	2	授業を通して、文学やことばに関する自分の選択したテーマについて研究を進め、最終的に卒業レポートを完成させる。あるいは、創作（小説）のテーマを決めて構想を練り、作品を完成させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の研究テーマや、創作の課題について明確なビジョンを持つことができるようになる。（思考・判断・表現）</li> <li>長文のレポートや創作のための文章力を身につけることができるようになる。（技能）</li> <li>優れたレポートあるいは個性的な創作を完成させる力を修得できるようになる。（技能）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の研究テーマや、創作の課題についてビジョンを持つことができるようになる。（思考・判断・表現）</li> <li>長文のレポートや創作のための一定の文章力を身につけることができるようになる。（技能）</li> <li>レポートあるいは創作を完成させる力を修得できるようになる。（技能）</li> </ul>
児童文学	文科 専門教育科目 日本文学・表現コース	2	1・2	児童文学の古今の名作を取りあげ、さまざまな切り口から、原作の表現、描写、構成のテクニクを学び、同時に、作品のテーマの理解を深める。また短編の創作もおこなう。日常生活のなかから話の材料を見つけだし、そこからイメージをふくらませ、どのようにひとつの作品としてしあげていくか、物語づくりのおもしろさを体験する。児童文学の奥深さを知り、創作の楽しさを味わっていく。	<ul style="list-style-type: none"> <li>数々の優れた児童文学作品を読み、作品を様々な切り口で分析する力をしっかりと習得することができるようになる。（知識・理解）</li> <li>日常生活の中の材料から童話作品をきちんと創作することができるようになる。（判断・思考・表現）</li> <li>想像力、創造力、文章力をおおいに高めることができるようになる。（判断・思考・表現）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>数々の優れた児童文学作品を読み、作品を様々な切り口で分析する力をある程度習得することができるようになる。（知識・理解）</li> <li>日常生活の中の材料から童話作品をある程度創作することができるようになる。（判断・思考・表現）</li> <li>想像力、創造力、文章力をある程度高めることができるようになる。（判断・思考・表現）</li> </ul>
映画・演劇論	文科 専門教育科目 日本文学・表現コース	2	1・2	19世紀末に誕生した映画は、それまでにない「第7」の芸術として独自性をめざす一方、20世紀を通して大衆娯楽産業として発達する。その過程で様々な演劇ジャンルから多くの刺激と影響を受けてきた。例えば、西洋の近代劇やオペラやミュージカル、日本の伝統芸能（能、文楽、歌舞伎）、中国の京劇などといった演劇と、映画の歴史はどう交差してきたのか。できるだけ多様な映像資料を参照しつつ、それらを通して映画と演劇について学んでいく。	<ul style="list-style-type: none"> <li>映画と演劇に関する基本的な知識をしっかりと習得できている。（知識・理解）</li> <li>映画と演劇の社会的文化的背景にも目を向けながら作品を批評的に読む力をきちんと身につけることができている。（知識・理解）</li> <li>自らの意見を説得的に表現できる力をしっかりと身につけることができている。（判断・思考・表現）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>映画と演劇に関する基本的な知識を最低限習得できている。（知識・理解）</li> <li>映画と演劇の社会的文化的背景にも目を向けながら作品を批評的に読む力を最低限身につけることができている。（知識・理解）</li> <li>自らの意見を説得的に表現できる最低限の力を身につけることができている。（判断・思考・表現）</li> </ul>
サブカルチャー論	文科 専門教育科目 日本文学・表現コース	2	1・2	マンガ、アニメ、ゲーム、ポップミュージックなどの、カウンターカルチャーとされるものの特質と魅力を考える。とくに、近年、日本のサブカルは海外での評価が高いが、それらが広く受け入れられるグローバルな意味についても理解を深める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>中心と周縁が曖昧化している今日の、メイン・カルチャーから隔たったサブ・カルチャーの意義について深い理解を有している。（知識・理解）</li> <li>サブ・カルチャーの持つ文化的エネルギーについて深い理解を有している。（知識・理解）</li> <li>カウンター・カルチャーの成果を通して日本文化を特質を批評的に捉え直し、グローバルな魅力を理解する優れた能力を身につけることができている。（知識・理解）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中心と周縁が曖昧化している今日の、メイン・カルチャーから隔たったサブ・カルチャーの意義について最低限の理解を有している。（知識・理解）</li> <li>サブ・カルチャーの持つ文化的エネルギーについて最低限の理解を有している。（知識・理解）</li> <li>カウンター・カルチャーの成果を通して日本文化を特質を批評的に捉え直し、グローバルな魅力を理解する最低限の能力を身につけることができている。（知識・理解）</li> </ul>
アニメの物語学	文科 専門教育科目 日本文学・表現コース 生活科学科 専門教育科目 メディア社会コース	2	1・2	「物語」とは何かについてまず考える。「物語」の定義は易しいようでいて難しい。授業では、まず「物語」についての定義を考え、その定義を用いて豊かな物語性に溢れた日本のアニメとくに宮崎駿のアニメについて学んでいく。まずは、日本のアニメの歴史を世界のアニメの歴史と比較しながら日本アニメの特徴を理解し、そこにどのような物語の文体が貫かれているかを学ぶ。さらに宮崎駿の作品の分析を通して、物語性、文化・思想的背景、込められたメッセージなどを読解する。そして宮崎アニメを手がかりに、アニメの「物語」が持つ意義について考察し「物語」の本質をより深く理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>抽象的な「物語」について多様な角度から考察し定義することができる。（思考・判断・表現）</li> <li>グリム童話からディズニーアニメまでの流れを時代背景などを踏まえて的確に説明できる。（知識・理解）</li> <li>戦後の日本のアニメを時代のかかわりや物語性の観点からの確に説明できる。（知識・理解）</li> <li>宮崎駿の作品について、物語性や時代性、文化や思想という観点から要点を的確に説明できる。（知識・理解）</li> <li>物語という観点からアニメ作品について深く論じることができる。（思考・判断・表現）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>抽象的な「物語」についてある一定の定義ができる。（思考・判断・表現）</li> <li>グリム童話からディズニーアニメまでの流れをおおまかにある程度説明できる。（知識・理解）</li> <li>戦後の日本のアニメを時代のかかわりや物語性の観点からおおまかにある程度の説明ができる。（知識・理解）</li> <li>宮崎駿の作品について、物語性や時代性、文化や思想という観点からおおまかにある程度説明できる。（知識・理解）</li> <li>物語という観点からアニメ作品についておおまかにある程度論じることができる。（思考・判断・表現）</li> </ul>
文学創作演習	文科 専門教育科目 日本文学・表現コース	2	1・2	教員の指導のもと、学生が実際に小説の創作を試みる授業。いくつかの小説（短編）や文章を読み、作品を肌で感じ、そのうえで、実際に作品を書いてみる。作品を創作する創造性や文章力を養う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>創作の準備としていくつかの小説（短編）や文章を読み込む力がしっかりと身につけている。（知識・理解）</li> <li>作品を実際に書く力がしっかりと身につくようになっている。（技能）</li> <li>作品を創作する創造性や文章力を身につけることができている。（思考・判断・表現）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>創作の準備としていくつかの小説（短編）や文章を読み込む最低限の力が身につけている。（知識・理解）</li> <li>作品を実際に書く最低限の力が身につくようになっている。（技能）</li> <li>作品を創作する創造性や文章力をある程度身につけることができている。（思考・判断・表現）</li> </ul>
Reading I	文科 専門教育科目 英語コース	1	1	英文を読むための基本的なテクニクを知り、スキミング、トピックセンテンスの発見、パラグラフ構成の理解、予測・推論などの技術を身につける。	<ul style="list-style-type: none"> <li>スキミング、トピックセンテンスの発見、パラグラフ構成の理解、予測・推論などの技術を的確に応用して英文を読み理解することができる。（技能）（知識・理解）</li> <li>高度な内容の英文読解に必要な語彙を身につけ、使用できる。（知識・理解）（思考・判断・表現）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>スキミング、トピックセンテンスの発見、パラグラフ構成の理解、予測・推論などの技術をある程度応用して英文を読み理解することができる。（技能）（知識・理解）</li> <li>平易な内容の英文読解に必要な語彙を身につけ、使用できる。（知識・理解）（思考・判断・表現）</li> </ul>
Writing I	文科 専門教育科目 英語コース	1	1	文法的に正しい英文の構造を知り、語彙やパラグラフ・ライティングのための基礎を身につける。	<ul style="list-style-type: none"> <li>英文法の知識を十分に身につけ、単文レベルの英作文が正確にできる。（知識・理解）（技能）（思考・判断・表現）</li> <li>平易な内容の英作文に必要な語彙を十分に身につけ、使用できる。（知識・理解）（思考・判断・表現）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>英文法の知識をある程度身につけ、単文レベルの英作文がある程度できる。（知識・理解）（技能）（思考・判断・表現）</li> <li>平易な内容の英作文に必要な語彙をある程度身につけ、使用できる。（知識・理解）（思考・判断・表現）</li> </ul>
Listening I	文科 専門教育科目 英語コース	1	1	英語の音声の特徴（強弱、リズム、音の脱落など）を理解し、日常会話レベルの英語を聞き取る技術を身につける	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常会話レベルの英語を聞いて、内容を正確に解釈できる。（知識・理解）（思考・判断・表現）</li> <li>平易な内容の英語の聞き取りに必要な語彙を十分に身につけ、使用できる。（知識・理解）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常会話レベルの英語を聞いて、内容をある程度解釈できる。（知識・理解）（思考・判断・表現）</li> <li>平易な内容の英語の聞き取りに必要な語彙をある程度身につけ、使用できる。（知識・理解）</li> </ul>
Oral English I	文科 専門教育科目 英語コース	1	1	スピーキングの力を向上させ、語彙を増やして、日常会話レベルの英会話の技術を身につける。	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常会話レベルの内容を英語で正確に表現できる。（知識・理解）（技能）（思考・判断・表現）</li> <li>日常会話レベルの英語の運用に必要な語彙を十分に身につけ、使用できる。（知識・理解）（技能）（思考・判断・表現）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常会話レベルの内容を英語である程度表現できる。（知識・理解）（技能）（思考・判断・表現）</li> <li>日常会話レベルの英語の運用に必要な語彙をある程度身につけ、使用できる。（知識・理解）（技能）（思考・判断・表現）</li> </ul>

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
Reading II	文科 専門教育 科目 英語コース	1	1	Reading I で身につけた英文を読むための基本的なテクニックを使用して、更に高度な内容の英文のスキミング、トピックセンテンスの発見、パラグラフ構成の理解、予測・推論などの技術を身につける。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スキミング、トピックセンテンスの発見、パラグラフ構成の理解、予測・推論などの技術を的確に応用して英文を読み理解することができる。（技能）（知識・理解）</li> <li>・高度な内容の英文読解に必要な語彙を十分に身につけ、使用できる。（知識・理解）（思考・判断・表現）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スキミング、トピックセンテンスの発見、パラグラフ構成の理解、予測・推論などの技術をある程度応用して英文を読み理解することができる。（技能）（知識・理解）</li> <li>・高度な内容の英文読解に必要な語彙をある程度身につけ、使用できる。（知識・理解）（思考・判断・表現）</li> </ul>
Writing II	文科 専門教育 科目 英語コース	1	1	Writing I で身につけた文法的に正しい英文の構造の知識を使用して、まとまった量の英文（パラグラフ）を書く技術を身につける。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英文法の知識を十分に身につけ、パラグラフを構成しながら英文で正確に表現できる。（知識・理解）（技能）（思考・判断・表現）</li> <li>・高度な内容の英文作文に必要な語彙を十分に身につけ、使用できる。（知識・理解）（思考・判断・表現）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英文法の知識をある程度身につけ、パラグラフを構成しながら英文である程度表現できる。（知識・理解）（技能）（思考・判断・表現）</li> <li>・高度な内容の英文作文に必要な語彙をある程度身につけ、使用できる。（知識・理解）（思考・判断・表現）</li> </ul>
Listening II	文科 専門教育 科目 英語コース	1	1	英語の音声の特徴（強弱、リズム、音の脱落など）を理解し、アナウンスやスピーチやニュース原稿など、まとまった量の英語を聞き取る技術を身につける。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アナウンスやスピーチやニュース原稿などの英語を聞いて、内容を正確に解釈できる。（知識・理解）（思考・判断・表現）</li> <li>・アナウンスやスピーチやニュース原稿などの英語の聞き取りに必要な語彙を十分に身につけ、使用できる。（知識・理解）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アナウンスやスピーチやニュース原稿などの英語を聞いて、内容をある程度解釈できる。（知識・理解）（思考・判断・表現）</li> <li>・アナウンスやスピーチやニュース原稿などの英語の聞き取りに必要な語彙をある程度身につけ、使用できる。（知識・理解）</li> </ul>
Oral English II	文科 専門教育 科目 英語コース	1	1	スピーキングの力を向上させ、語彙を増やして、スピーチやアナウンスなど、まとまった内容を英語で表現する技術を身につける。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スピーチなどのまとまった量の情報を英語で正確に表現できる。（知識・理解）（技能）（思考・判断・表現）</li> <li>・英語でまとまった量の情報を発信する際に必要な語彙を十分に身につけ、使用できる。（知識・理解）（技能）（思考・判断・表現）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スピーチなどのまとまった量の情報を英語である程度表現できる。（知識・理解）（技能）（思考・判断・表現）</li> <li>・英語でまとまった量の情報を発信する際に必要な語彙をある程度身につけ、使用できる。（知識・理解）（技能）（思考・判断・表現）</li> </ul>
English for Special Purposes A I	文科 専門教育 科目 英語コース	1	2	英語の歌を題材にして、歌詞の内容や時代背景などを理解し、英語の語彙や口語表現を身につけ、発音練習も行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌詞の内容を正確に解釈できる。（知識・理解）</li> <li>・授業で学んだ英語表現を的確に使用できる。（技能）（思考・判断・表現）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌詞の内容をある程度解釈できる。（知識・理解）</li> <li>・授業で学んだ英語表現をある程度使用できる。（技能）（思考・判断・表現）</li> </ul>
English for Special Purposes B I	文科 専門教育 科目 英語コース	1	2	英米の映画を題材にして、台詞の内容や時代背景などを学習・理解し、英語の語彙や口語表現を身につける。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語の日常表現を正確に解釈できる。（知識・理解）</li> <li>・ナチュラルスピードの英語を正確に聞き取ることができる。（知識・理解）</li> <li>・日常に関することを自然な英語で的確に表現できる。（技能）（思考・判断・表現）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語の日常表現をある程度解釈できる。（知識・理解）</li> <li>・ナチュラルスピードの英語をある程度聞き取ることができる。（知識・理解）</li> <li>・日常に関することを自然な英語である程度表現できる。（技能）（思考・判断・表現）</li> </ul>
English for Special Purposes C I	文科 専門教育 科目 英語コース	1	2	英語で効果的なプレゼンテーションを行うために、視覚資料の使い方やデータの提示の仕方、姿勢、身振り、声の抑揚、アイコンタクトなどの技術を学び、実践演習を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プレゼンテーションの技術を的確に使用することができる。（技能）（思考・判断・表現）</li> <li>・英語でプレゼンテーションを行い、情報を正確に相手に伝えることができる。（技能）（思考・判断・表現）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プレゼンテーションの技術をある程度使用することができる。（技能）（思考・判断・表現）</li> <li>・英語でプレゼンテーションを行い、情報をある程度相手に伝えることができる。（技能）（思考・判断・表現）</li> </ul>
English for Special Purposes D I	文科 専門教育 科目 英語コース	1	2	ホスピタリティー・ビジネス（航空、観光、ホテルなど）で必要とされる英語の語彙や口語表現を学ぶ。また、日本と英語圏の文化の違いも学習し、異文化コミュニケーションのための知識も身につける。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホスピタリティー・ビジネスで必要とされる英語の語彙や口語表現を的確に使用できる。（技能）（思考・判断・表現）</li> <li>・日本と英語圏の文化を比較し、違いを的確に述べることができる。（知識・理解）（思考・判断・表現）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホスピタリティー・ビジネスで必要とされる英語の語彙や口語表現をある程度使用できる。（技能）（思考・判断・表現）</li> <li>・日本と英語圏の文化を比較し、違いをある程度述べることができる。（知識・理解）（思考・判断・表現）</li> </ul>
English for Special Purposes A II	文科 専門教育 科目 英語コース	1	2	英語の歌を題材にして、歌詞の内容や時代背景などを理解し、英語の語彙や口語表現を身につけ、発音練習も行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌詞の内容を正確に解釈できる。（知識・理解）</li> <li>・授業で学んだ英語表現を会話の場面で的確に使用できる。（技能）（思考・判断・表現）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌詞の内容をある程度解釈できる。（知識・理解）</li> <li>・授業で学んだ英語表現を会話の場面である程度使用できる。（技能）（思考・判断・表現）</li> </ul>
English for Special Purposes B II	文科 専門教育 科目 英語コース	1	2	英米の映画を題材にして、台詞の内容や時代背景などを学習・理解し、英語の語彙や口語表現を身につける。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語の日常表現を正確に解釈できる。（知識・理解）</li> <li>・ナチュラルスピードの英語を正確に聞き取ることができる。（知識・理解）</li> <li>・日常に関することを自然な英語で的確に表現できる。（技能）（思考・判断・表現）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語の日常表現をある程度解釈できる。（知識・理解）</li> <li>・ナチュラルスピードの英語をある程度聞き取ることができる。（知識・理解）</li> <li>・日常に関することを自然な英語である程度表現できる。（技能）（思考・判断・表現）</li> </ul>
English for Special Purposes C II	文科 専門教育 科目 英語コース	1	2	英語で効果的なプレゼンテーションを行うために、視覚資料の使い方やデータの提示の仕方、姿勢、身振り、声の抑揚、アイコンタクトなどの技術を学び、実践演習を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プレゼンテーションの技術を的確に使用することができる。（技能）（思考・判断・表現）</li> <li>・英語でプレゼンテーションを行い、情報を正確に相手に伝えることができる。（技能）（思考・判断・表現）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プレゼンテーションの技術をある程度使用することができる。（技能）（思考・判断・表現）</li> <li>・英語でプレゼンテーションを行い、情報をある程度相手に伝えることができる。（技能）（思考・判断・表現）</li> </ul>
English for Special Purposes D II	文科 専門教育 科目 英語コース	1	2	ホスピタリティー・ビジネス（航空、観光、ホテルなど）で必要とされる英語の語彙や口語表現を学ぶ。また、日本と英語圏の文化の違いも学習し、異文化コミュニケーションのための知識も身につける。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホスピタリティー・ビジネスで必要とされる英語の語彙や口語表現を的確に使用できる。（技能）（思考・判断・表現）</li> <li>・日本と英語圏の文化を比較し、違いを的確に述べることができる。（知識・理解）（思考・判断・表現）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホスピタリティー・ビジネスで必要とされる英語の語彙や口語表現をある程度使用できる。（技能）（思考・判断・表現）</li> <li>・日本と英語圏の文化を比較し、違いをある程度述べることができる。（知識・理解）（思考・判断・表現）</li> </ul>

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
英文法	文科 専門教育 科目 英語コース	2	1	高校までに学んだ英文法の重要な項目を学び直し、英語の専門科目を学ぶための基礎力を身につける。	英文法の重要項目の内容を十分に理解し、正確に使用できる。（知識・理解）（技能）（思考・判断・表現）	英文法の重要項目の内容をある程度理解し、使用できる。（知識・理解）（技能）（思考・判断・表現）
英語音声学	文科 専門教育 科目 英語コース	2	1	英語の個々の音声の特徴や発音の仕方、句や文のイントネーションやリズムなどを理解する。発音記号が表す音声を理解する。	・英語の個々の音声の特徴を理解し、発音を正確に行うことができる。（知識・理解）（技能） ・英語のイントネーションやリズムを理解し、句や文の発音を正確に行うことができる。（知識・理解）（技能） ・発音記号を正確に読める。（知識・理解）	・英語の個々の音声の特徴を理解し、発音をある程度行うことができる。（知識・理解）（技能） ・英語のイントネーションやリズムを理解し、句や文の発音をある程度行うことができる。（知識・理解）（技能） ・発音記号をある程度読める。（知識・理解）
英語学概論	文科 専門教育 科目 英語コース	4	1・2	音声学・形態論・統語論・意味論・英語史など、英語学の諸分野について基礎知識を身につけ、英語を様々な角度から理解する。	・英語学の全体像を十分に把握できる。（知識・理解） ・英語という言葉を経科学的に分析し、深く理解できる。（思考・判断・表現） ・社会と言語の関係、国際社会における英語の役割について考えを十分に深めることができる。（関心・意欲・態度）	・英語学の全体像をある程度把握できる。（知識・理解） ・英語という言葉を経科学的に分析し、ある程度理解できる。（思考・判断・表現） ・社会と言語の関係、国際社会における英語の役割について考えをある程度深めることができる。（関心・意欲・態度）
英米文学概論	文科 専門教育 科目 英語コース	4	1・2	アメリカ・イギリス文学の流れについて基礎知識を身に付ける。英米文学作品を通じて視野を広げ、テキストと対話する方法を身につける。英国と米国双方の文学史を概観しつつ、時代毎に代表的な作家に焦点を当て、作品の抜粋を精読しながら英米文学への理解を深める。	・英文学史、米文学史の流れを十分に理解できる。（知識・理解） ・文学作品を読み解き、研究するための基礎知識について具体的に述べるができる。知識・理解） ・特定の作家および作品について十分に調査し、的確な分析・考察ができる。（思考・判断・表現）	・英文学史、米文学史の流れをある程度理解できる。（知識・理解） ・文学作品を読み解き、研究するための基礎知識についてある程度述べるができる。（知識・理解） ・特定の作家および作品について調査し、自分なりの分析・考察ができる。（思考・判断・表現）
英語学演習	文科 専門教育 科目 英語コース	1	2	英語の時制表現（現在形、過去形、様々な未来の表現、進行形、完了形など）に関して学び、日本語とは異なる英語の表現方法を理解して英語の正確な使い方を身につける。	・英語の様々な時制表現の違いについて正確に説明できる。（知識・理解）（思考・判断・表現） ・英語の様々な時制表現を的確に使用できる。（技能）（思考・判断・表現）	・英語の様々な時制表現の違いについてある程度説明できる。（知識・理解）（思考・判断・表現） ・英語の様々な時制表現をある程度使用できる。（技能）（思考・判断・表現）
英米文学演習	文科 専門教育 科目 英語コース	1	2	英語圏の小説・詩・演劇などのジャンルより代表的な作家とその作風について分析・考察し、主体的に討議や研究発表を行う方法を身につける。英語文学を鑑賞する視点や鑑賞力を養い、文学作品（英文）の精読を通して英文読解力を高める。	・英語で書かれた文学作品を正確に読解し、的確な分析・考察ができる。（思考・判断・表現） ・文学作品に描かれている人間や社会の様々な側面について深く洞察し十分に理解できる。（知識・理解）	・英語で書かれた文学作品をある程度読解し、自分なりの分析・考察ができる。（思考・判断・表現） ・文学作品に描かれている人間や社会の様々な側面について自分なりに洞察しある程度理解できる。（知識・理解）
英語学研究	文科 専門教育 科目 英語コース	2	2	英語の定冠詞と不定冠詞、冠詞の有無、可算名詞と不可算名詞、動名詞と不定詞、仮定法と直説法、などの違いについて学び、日本語とは異なる英語の表現方法を理解して英語の正確な使い方を身につける。	・英語の定冠詞と不定冠詞、冠詞の有無、可算名詞と不可算名詞、動名詞と不定詞、仮定法と直説法、などの違いを具体的に述べることができる。（知識・理解）（思考・判断・表現） ・英語の定冠詞と不定冠詞、冠詞の有無、可算名詞と不可算名詞、動名詞と不定詞、仮定法と直説法、などを正確に使用できる。（技能）（思考・判断・表現）	・英語の定冠詞と不定冠詞、冠詞の有無、可算名詞と不可算名詞、動名詞と不定詞、仮定法と直説法、などの違いをおおまかに述べることができる。（知識・理解）（思考・判断・表現） ・英語の定冠詞と不定冠詞、冠詞の有無、可算名詞と不可算名詞、動名詞と不定詞、仮定法と直説法、などをある程度使用できる。（技能）（思考・判断・表現）
英米文学研究	文科 専門教育 科目 英語コース	2	2	英語圏の特定の作家、あるいは特定の分野についての知識を身につける。複数の作品を読解し、その作家および分野の特性について詳しく知る。	・英語で書かれた特定の文学作品について詳しく説明できる。（知識・理解） ・英語で書かれた文学作品を正確に読解し、作品に描かれている人間や社会の様々な側面について深く洞察し十分に理解できる。（思考・判断・表現）	・英語で書かれた特定の文学作品についてある程度説明できる。（知識・理解） ・英語で書かれた文学作品をある程度読解し、作品に描かれている人間や社会の様々な側面について自分なりに洞察しある程度理解できる。（思考・判断・表現）
TOEIC演習 I	文科 専門教育 科目 英語コース	2	1	TOEICスコアアップのために必要な語彙や文法事項の学習、リーディングやリスニングの演習を通して英語力を身につける。	TOEIC受験に必要な語彙、文法の知識、リーディング、リスニングの技術を十分に身につけ、500点以上の取得を目指すことができる。（知識・理解）	TOEIC受験に必要な語彙、文法の知識、リーディング、リスニングの技術をある程度身につけ、500点程度の取得を目指すことができる。（知識・理解）
TOEIC演習 II	文科 専門教育 科目 英語コース	1	2	TOEIC演習Iで身につけた知識を活用して、TOEICスコアアップのために必要な語彙や文法事項の学習、リーディングやリスニングの演習を通して英語力を身につける。	TOEIC受験に必要な語彙、文法の知識、リーディング、リスニングの技術を十分に身につけ、600点以上の取得を目指すことができるようになる。（知識・理解）（技能）（思考・判断・表現）	TOEIC受験に必要な語彙、文法の知識、リーディング、リスニングの技術をある程度身につけ、500点以上の取得を目指すことができるようになる。（知識・理解）（技能）（思考・判断・表現）
News English I	文科 専門教育 科目 英語コース	1	1・2	英字新聞の読解練習またはニュース番組の視聴を通して、必要な情報を読み取る・聞き取る技術を身につける。世界情勢の理解と政治・経済などの分野の専門用語を学ぶ。	・英字新聞の英語を正確に解釈できる。（知識・理解） ・ニュース番組の英語を聞き取り、内容を具体的に述べるができる。（知識・理解）（思考・判断・表現） ・政治や経済の専門用語を的確に説明できる。（思考・判断・表現）	・英字新聞の英語をある程度解釈できる。（知識・理解） ・ニュース番組の英語を聞き取り、内容をある程度述べることができる。（知識・理解）（思考・判断・表現） ・政治や経済の専門用語をある程度説明できる。（思考・判断・表現）

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
News English II	文科 専門教育 科目 英語コース	1	1・2	NewsEnglish I よりも高度なレベルの英字新聞の読解練習またはニュース番組の視聴を通して、必要な情報を読み取る・聞き取る技術を身につける。世界情勢や政治・経済などの分野の専門用語を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>英字新聞の英語を正確に解釈できる。（知識・理解）</li> <li>ニュース番組の英語を聞き取り、内容を具体的に述べるができる。（知識・理解）（思考・判断・表現）</li> <li>政治や経済の専門用語を的確に説明できる。（思考・判断・表現）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>英字新聞の英語をある程度解釈できる。（知識・理解）</li> <li>ニュース番組の英語を聞き取り、内容をある程度述べるができる。（知識・理解）（思考・判断・表現）</li> <li>政治や経済の専門用語をある程度説明できる。（思考・判断・表現）</li> </ul>
Business English I	文科 専門教育 科目 英語コース	1	1・2	ビジネスの場面でよく使用される基本的な英語表現を学び、英語の手紙やEメールでの文書作成の仕方を身につける。	<ul style="list-style-type: none"> <li>ビジネスの場面でよく使用される基本的表現や、英文レターやEメールの書式を十分に理解して身につけている。（知識・理解）</li> <li>英語のビジネス文書を的確に解釈できる。（知識・理解）</li> <li>英語のビジネス文書を的確に作成できる。（思考・判断・表現）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ビジネスの場面でよく使用される基本的表現や、英文レターやEメールの書式をある程度理解して身につけている。（知識・理解）</li> <li>英語のビジネス文書をある程度解釈できる。（知識・理解）</li> <li>英語のビジネス文書をある程度作成できる。（思考・判断・表現）</li> </ul>
Business English II	文科 専門教育 科目 英語コース	1	1・2	BusinessEnglish I よりも高度な英語表現を学び、英語の手紙やEメールでの文書作成の仕方を身につける。	<ul style="list-style-type: none"> <li>ビジネスの場面でよく使用される基本的表現や、英文レターやEメールの書式を十分に理解して身につけている。（知識・理解）</li> <li>英語のビジネス文書を的確に解釈できる。（知識・理解）</li> <li>英語のビジネス文書を的確に作成できる。（思考・判断・表現）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ビジネスの場面でよく使用される基本的表現や、英文レターやEメールの書式をある程度理解して身につけている。（知識・理解）</li> <li>英語のビジネス文書をある程度解釈できる。（知識・理解）</li> <li>英語のビジネス文書をある程度作成できる。（思考・判断・表現）</li> </ul>
通訳法 I	文科 専門教育 科目 英語コース	1	1・2	通訳の基礎を学び、実技演習を行う。通訳の概念、日本語と英語の違い、異文化コミュニケーション、実践例等をアクティビティーを含めて概観し、基本的な通訳技術習得のために段階を追った実践的な訓練を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>通訳の基礎を十分に理解し、基礎訓練方法を身につけ、簡単な逐次通訳ができる。（技能）（思考・判断・表現）</li> <li>身近な事柄、日本文化・社会、国際問題等のテーマなどに関する語彙を十分に身につけている。（知識・理解）</li> <li>通訳者として必要な英語力及び表現力を十分に身につけている。（技能）（思考・判断・表現）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>通訳の基礎をある程度理解し、基礎訓練方法を身につけ、簡単な逐次通訳ができる。（技能）（思考・判断・表現）</li> <li>身近な事柄、日本文化・社会、国際問題等のテーマなどに関する語彙をある程度身につけている。（知識・理解）</li> <li>通訳者として必要な英語力及び表現力をある程度身につけている。（技能）（思考・判断・表現）</li> </ul>
通訳法 II	文科 専門教育 科目 英語コース	1	1・2	通訳法 I で学んだ通訳の基礎を前提に、更に高度な英語力及び通訳技術を身につける。国際理解、異文化間コミュニケーションを含めた場面設定を行い、様々なアクティビティーを通じて実践的なトレーニングを行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>通訳技術訓練方法に熟練し、通訳法 I の内容よりも高度な逐次通訳が的確にできる。（技能）（思考・判断・表現）</li> <li>身近な事柄、日本文化・社会、国際問題等のテーマなどに関して、通訳法 I の内容よりも高度な知識と語彙を十分に身につけている。（知識・理解）</li> <li>通訳法 I の内容よりも高度な英語力及び表現力を十分に身につけている。（技能）（思考・判断・表現）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>通訳技術訓練方法に熟練し、通訳法 I の内容よりも高度な逐次通訳がある程度できる。（技能）（思考・判断・表現）</li> <li>身近な事柄、日本文化・社会、国際問題等のテーマなどに関して、通訳法 I の内容よりも高度な知識と語彙をある程度身につけている。（知識・理解）</li> <li>通訳法 I の内容よりも高度な英語力及び表現力をある程度身につけている。（技能）（思考・判断・表現）</li> </ul>
翻訳法 I	文科 専門教育 科目 英語コース	1	1・2	実技演習を行いながら翻訳の基礎を学ぶ。日本語と英語の表現方法の違いを学びながら基本的な翻訳技術習得のために段階を追った実践的な訓練を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>英文翻訳に必要な読解力が十分に身につけている。（知識・理解）</li> <li>英文翻訳に必要な表現力が十分に身につけている。（思考・判断・表現）</li> <li>平易な内容の英文の翻訳が的確にできる。（知識・理解）（技能）（思考・判断・表現）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>英文翻訳に必要な読解力がある程度身につけている。（知識・理解）</li> <li>英文翻訳に必要な表現力がある程度身につけている。（思考・判断・表現）</li> <li>平易な内容の英文の翻訳がある程度できる。（知識・理解）（技能）（思考・判断・表現）</li> </ul>
翻訳法 II	文科 専門教育 科目 英語コース	1	1・2	翻訳法 I の内容を前提にして、文学作品のほか、英字新聞、実務英語の翻訳の仕方を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>翻訳法 I よりも高度な英文翻訳に必要な読解力が十分に身につけている。（知識・理解）</li> <li>翻訳法 I よりも高度な英文翻訳に必要な表現力が十分に身につけている。（思考・判断・表現）</li> <li>翻訳法 I よりも高度な内容の英文の翻訳が的確にできる。（知識・理解）（技能）（思考・判断・表現）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>翻訳法 I よりも高度な英文翻訳に必要な読解力がある程度身につけている。（知識・理解）</li> <li>翻訳法 I よりも高度な英文翻訳に必要な表現力がある程度身につけている。（思考・判断・表現）</li> <li>翻訳法 I よりも高度な内容の英文の翻訳がある程度できる。（知識・理解）（技能）（思考・判断・表現）</li> </ul>
卒業セミナー	文科 専門教育 科目 英語コース	4	1・2	担当教員が指定するテーマ（英語学・英米文学・国際関係・異文化コミュニケーション）について深く学ぶ。研究発表とその後の討議により学生の主体性を促す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>担当教員が指定するテーマ（英語学・英米文学・国際関係・異文化コミュニケーション）について主体的に調べ、問題点を具体的に述べるができる。（知識・理解）（技能）（思考・判断・表現）</li> <li>自分が選んだテーマについて調べた結果を、的確に系統立てて表現することができる。（思考・判断・表現）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>担当教員が指定するテーマ（英語学・英米文学・国際関係・異文化コミュニケーション）について主体的に調べ、問題点をある程度述べることができる。（知識・理解）（技能）（思考・判断・表現）</li> <li>自分が選んだテーマについて調べた結果を、ある程度系統立てて表現することができる。（思考・判断・表現）</li> </ul>
自己開発トレーニング	文科 専門教育 科目 心理学コース	2	1	心理検査を自分で実施することを通して自己理解を促進し、受講者同士でディスカッションをすることによって自己表現力を身につけ、コミュニケーション能力を養う。自分の人生をふりかえり、ライフストーリーを書いて、今後の人生の目標を立てることへの一助とする。レポートで自分の性格を分析して、さらに自己への理解を深める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>心理学の知識を具体的に述べられるようになる。（知識・理解）</li> <li>性格の分析の仕方を詳しく説明できる。（理解）</li> <li>自分の性格を客観的に詳しく分析できる。（思考・判断・表現）</li> <li>自分を知る学習を通じて、自分の性格について強い関心をもつようになる。（関心・意欲・態度）</li> <li>自分の性格について、心理テストで詳しく測定できるようになる。（技能）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>心理学の知識をおおまかに述べられるようになる。（知識・理解）</li> <li>性格の分析の仕方をおおまかに説明できる。（理解）</li> <li>自分の性格をおおまかに分析できる。（思考・判断・表現）</li> <li>自分を知る学習を通じて、自分の性格について若干関心をもつようになる。（関心・意欲・態度）</li> <li>自分の性格について、心理テストでおおまかに測定できるようになる。（技能）</li> </ul>

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
心理学概論	文科 専門教育科目 心理学コース	4	1	学習・記憶・言語・思考・情動・性格・自己などの心理学のトピックを理論や心理検査を通じて学ぶ。社会の現象や人間の行動を心理学的な視点からとらえなおす。認知心理学、社会心理学、発達心理学、臨床心理学等の心理学の専門分野を学ぶための基礎知識を得る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験や調査などの手法を用いて人間の行動を説明しようとする心理学の考え方を説明できるようになる。（知識・理解）</li> <li>・現代社会の問題を心理学的アプローチを用いて説明できるようになる。（思考・判断・表現）</li> <li>・自らの行動を心理学的な観点から分析できるようになる。（技能）</li> <li>・他人の行動について心理学的な関心をもてるようになる。（関心・意欲・態度）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験や調査などの手法を用いて人間の行動を説明しようとする心理学の考え方をおおまかに説明できるようになる。（知識・理解）</li> <li>・現代社会の問題を心理学的アプローチを用いておおまかに説明できるようになる。（思考・判断・表現）</li> <li>・自らの行動を心理学的な観点からおおまかに分析できるようになる。（技能）</li> <li>・他人の行動について心理学的な関心をもち始めるようになる。（関心・意欲・態度）</li> </ul>
発達心理学 I	文科 専門教育科目 心理学コース	2	1・2	人間の発達の各時期において、どのような課題が存在するか理解する。幼児期、児童期における心的、社会的、身体的な発達と発達を阻害する要因を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児期、児童期の発達に関する認知的、情動的、社会的要因を説明できる。（知識・理解）</li> <li>・現代の社会的相互作用における課題を自ら同定し、発達理論の観点から解釈できるようになる。（思考・判断・表現）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児期、児童期の発達に関する認知的、情動的、社会的要因のいずれかを説明できる。（知識・理解）</li> <li>・現代の社会的相互作用における課題を、発達理論の観点から解釈できるようになる。（思考・判断・表現）</li> </ul>
発達心理学 II	文科 専門教育科目 心理学コース	2	1・2	人間の発達の各時期において、どのような課題が存在するか理解する。青年期、成人期、老年期における心的、社会的、身体的な発達と発達を阻害する要因を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・青年期、成人期、老年期の発達に関する認知的、情動的、社会的要因を説明できる。（知識・理解）</li> <li>・現代の社会的相互作用における課題を自ら同定し、発達理論の観点から解釈することができる。（思考・判断・表現）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・青年期、成人期、老年期の発達に関する認知的、情動的、社会的要因のいずれかを説明できる。（知識・理解）</li> <li>・現代の社会的相互作用における課題を、発達理論の観点から解釈することができる。（思考・判断・表現）</li> </ul>
臨床心理学 I	文科 専門教育科目 心理学コース	2	1・2	臨床心理学全般にわたる知識を、幅広く学ぶことを目的とする。臨床心理学の基礎的な考え方を理解するとともに、その実践の初歩についても、理解していく。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実例や理論や自己洞察により、臨床心理学の基礎について説明できるようになる。（知識・理解）</li> <li>・心理テストなどで自己について洞察し、表現できるようになる。（思考・判断・表現）</li> <li>・精神疾患への対応が初歩的なできるようになる。（技能）</li> <li>・精神疾患への対応にある程度の関心をもって関われる。（関心・意欲・態度）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実例や理論や自己洞察により、臨床心理学の基礎についておおまかに説明できるようになる。（知識・理解）</li> <li>・心理テストなどで自己について洞察し、おおまかに表現できるようになる。（思考・判断・表現）</li> <li>・精神疾患へ最低限の対応ができるようになる。（技能）</li> <li>・精神疾患への対応に最低限の関心をもって関われる。（関心・意欲・態度）</li> </ul>
臨床心理学 II	文科 専門教育科目 心理学コース	2	1・2	具体的な実践例、たとえば人格障害・うつ病・統合失調症・対人恐怖症・不登校などの例を通じて、実践学としての臨床心理学について、深く理解していく。また、DSM-Vという診断基準の学習を行い、精神の病について理解を深める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実例や理論や自己洞察により、臨床心理学の応用について説明できるようになる。（知識・理解）</li> <li>・心理テストなどで自己についてより深く洞察し、詳しく表現できるようになる。（思考・判断・表現）</li> <li>・精神疾患への対応がかなりできるようになる。（技能）</li> <li>・精神疾患への対応に大きな関心をもって関われる（関心・意欲・態度）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実例や理論や自己洞察により、臨床心理学の応用についておおまかに説明できるようになる。（知識・理解）</li> <li>・心理テストなどで自己について洞察し、ある程度表現できるようになる。（思考・判断・表現）</li> <li>・精神疾患への対応がおおまかにできるようになる（技能）</li> <li>・精神疾患への対応に関心をもって関われる（関心・意欲・態度）</li> </ul>
健康心理学	文科 専門教育科目 心理学コース	2	1・2	健康心理学は心理学的アプローチを用いてメンタルヘルス及び疾病と健康の問題を扱おうとするものである。健康の維持、ストレスへの対処、患者の意思決定等のトピックから健康心理学の視点を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間の健康が身体・精神の両面から支えられていることを、健康心理学の概念を用いて考察できるようになる。（思考・判断・表現）</li> <li>・健康の維持や病気の予防へのアプローチについて系統立てて説明できる。（知識・理解）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間の健康が身体・精神の両面から支えられていることを考察できるようになる。（思考・判断・表現）</li> <li>・健康の維持や病気の予防へのアプローチについて基本的な事項を説明できる。（知識・理解）</li> </ul>
カウンセリング論	文科 専門教育科目 心理学コース	2	1・2	カウンセリングの基礎を身につける。そして、日常にも活かせる聴き方など、さまざまな技法を習得する。さらに、実際にカウンセリングの練習をして、初歩的なカウンセリング方法について学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他人の悩みに対してアドバイスができるようになる。（技能）</li> <li>・他人の話を深く傾聴できるようになる（関心・意欲・態度）</li> <li>・ロールプレイによって、相手の気持ちを解釈できるようになる。（知識・理解）</li> <li>・自分のストレスを適切に表現できるようになり、カウンセリングへの洞察ができるようになる。（思考・判断・表現）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他人の悩みに対して初歩的なアドバイスができるようになる。（技能）</li> <li>・他人の話をおおまかに傾聴できるようになる。（関心・意欲・態度）</li> <li>・ロールプレイによって、相手の気持ちをおおまかに解釈できるようになる。（知識・理解）</li> <li>・自分のストレスをおおまかに表現できるようになり、カウンセリングへの洞察がおおまかにできるようになる。（思考・判断・表現）</li> </ul>
教育心理学	文科 専門教育科目 心理学コース	2	1・2	発達、学習、生徒指導に関する教育心理学の知見を学ぶ。教育現場における教師や子どもの実態を踏まえつつ、教師を目指す学生や職場で後輩を指導していく際の手助けになる知識の理解を深める。授業は視聴覚教材を随時利用する一斉講義を中心としたものであるが、グループワークや小レポートが課される場合もある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育心理学の知見や研究方法を系統立てて説明できる。（知識・理解）</li> <li>・教育心理学の知見を利用して教育の諸問題を自ら同定し、考察できるようになる。（思考・判断・表現）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育心理学の知見や研究方法の基本的な事項を説明できる。（知識・理解）</li> <li>・教育心理学の知見を利用して教育の諸問題を考察できるようになる。（思考・判断・表現）</li> </ul>
認知心理学	文科 専門教育科目 心理学コース	2	1・2	知覚・記憶・思考・言語にわたる認知心理学の基礎を、幅広く学ぶことを目的とする。認知の基礎的なメカニズムを理解するとともに、認知心理学がどのように応用されているのかという面も理解していく。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知心理学の基礎的な知見を幅広く身につけ、説明できるようになる。（知識・理解）</li> <li>・授業で学んだことを日常生活と結びつけて説明できるようになる。（思考・判断・表現）</li> <li>・日常生活の出来事について認知心理学的な関心をもてるようになる。（関心・意欲・態度）</li> <li>・認知心理学的なトピックスについて、調べることができるようになる。（技能）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知心理学の基礎的な知見を身につけ、おおまかに説明できるようになる。（知識・理解）</li> <li>・授業で学んだことを日常生活と結びつけておおまかに説明できるようになる。（思考・判断・表現）</li> <li>・日常生活の出来事について認知心理学的な関心を少しもてるようになる。（関心・意欲・態度）</li> <li>・認知心理学的なトピックスについて、おおまかに調べることができるようになる。（技能）</li> </ul>

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
社会心理学	文科 専門教育科目 心理学コース	2	1・2	人が様々な人と関わりを持ちながら日常生活を営む場が社会である。人はその社会の中で常に他の人に心理的な影響を与え、そして与えられている。その影響というものは良い影響を及ぼすものであれば良いが、必ずしもそういうわけではない。特に現代社会はストレス社会と言われるくらいに、様々な影響を社会から受ける状態である。しかし、人が生活を営んでいくために社会の中でストレスにうまく立ち回る必要がある。では、「なぜそう感じるのか?」、「それはなぜなのか?」、「どうしたらいいのか?」という心への問いかけについて、社会との関わりを考えながら、考察する。	・社会心理学における「社会」の概念を、複数の具体例を挙げて説明できる。（知識・理解） ・社会の中の対人関係や集団活動は外部刺激（他の人、環境）から様々な影響を受けている。その時に人間がどのような行動、態度を取るのかについて、実際の事例と関連づけて考察できる。（思考・判断・表現）	・社会心理学における「社会」の概念を説明できる。（知識・理解） ・社会の中の対人関係や集団活動は外部刺激（他の人、環境）から様々な影響を受けている。その時に人間がどのような行動、態度を取るのかについて考察できる。（思考・判断・表現）
コミュニケーション心理	文科 専門教育科目 心理学コース	2	2	人間関係、集団、自己に関する心理学の知見を学び、コミュニケーションを多面的に理解する。授業は視聴覚教材を随時利用する一斉講義を中心としたものであるが、グループワークや小レポートが課される場合もある。	・コミュニケーションに関する心理学の知見や研究方法を系統立てて説明できる。（知識・理解） ・心理学の知見を、主体的に豊かなコミュニケーションの実践に役立てることができるようになる。（思考・判断・表現）	・コミュニケーションに関する心理学の知見や研究方法の基本的な事項を説明できる。（知識・理解） ・心理学の知見を豊かなコミュニケーションの実践に役立てることができるようになる。（思考・判断・表現）
こころと行動	文科 専門教育科目 心理学コース	2	2	こころと行動の関係について、学ぶ。様々な心理学的な技法を用いて、ストレス解消法を身につける。グループで話し合い、自己表現の力を身につける。心身関係を理解し、セルフコントロールセルフコントロールができるようになる。	・特に心身についての臨床心理学的な技法のメカニズムを説明できるようになる。（知識・理解） ・フォーカシング、マインドフルネス、自律訓練法などの方法を使えるようになる。（技能） ・心身の観点から自分のストレスについて深く考えることができるようになる。（思考・判断・表現） ・ストレス耐性を高められるようになる。（関心・意欲・態度）	・特に心身についての臨床心理学的な技法のメカニズムをおおまかに説明できるようになる。（知識・理解） ・フォーカシング、マインドフルネス、自律訓練法などの方法をおおまかに使えるようになる。（技能） ・心身の観点から自分のストレスについておおまかに考えることができるようになる。（思考・判断・表現） ・ストレス耐性をある程度高められるようになる。（関心・意欲・態度）
性格とは何か	文科 専門教育科目 心理学コース	2	2	パーソナリティを理解するための心理学の試みを知る。類型論から特性論への展開、パーソナリティに影響を与える生物学的要因と社会的要因の多様なパーソナリティの理論とその技法について理解する。	・複数のパーソナリティ理論を比較し、その違いをふまえて各理論の特徴を説明できる。（知識・理解） ・パーソナリティの形成過程を、遺伝的・社会的要因の影響をふまえて考察できるようになる。（思考・判断・表現）	・代表的なパーソナリティ理論を説明できる。（知識・理解） ・パーソナリティの形成過程を考察できるようになる。（思考・判断・表現）
アートと心理	文科 専門教育科目 心理学コース	2	1・2	アートセラピーに関するテキストをともに読んだり、アートセラピー実習を行うことを通じて、アートの視点から心理学を学ぶ。さらに、多様な心のチャンネル、アンテナを広げていく。また、作品の解釈により自己理解を深める。	・アートセラピーの解釈の仕方を理解できるようになる。（知識・理解） ・アートセラピーの考え方を利用して、自己洞察を深められるようになる。（思考・判断・表現） ・アートを芸術療法の観点から解釈できるようになる。（技能） ・アートセラピーを通じて自分の感性を磨くことができるようになる。（関心・意欲・態度）	・アートセラピーの解釈の仕方をおおまかに理解できるようになる。（知識・理解） ・アートセラピーの考え方を利用して、自己洞察をおおまかにできるようになる。（思考・判断・表現） ・アートを芸術療法の観点からおおまかに解釈できるようになる。（技能） ・アートセラピーを通じて自分の感性をおおまかに磨くことができるようになる。（関心・意欲・態度）
音楽とこころ	文科 専門教育科目 心理学コース	2	1・2	この講義では、「聴く」という行為と「こころ」のありかたの関係について考察する。聴覚は、視覚、触覚、味覚、嗅覚、また自己受容性の感覚と、どのような点が異なっており、また、それらとどのように関わりあって私たちのこころを動かしているのかを考える。	自分の音楽経験と聴く姿勢を見つめ直し、これまで知らなかった音や音楽の世界への耳を開くことによって、聴く行為が、「私」というものの形成にどのように関わっているかについて主体的に考えられるようになる。（思考・判断・表現）	自分の音楽経験と聴く姿勢を見つめ直し、これまで知らなかった音や音楽の世界への耳を開くことによって、聴く行為が、「私」というものの形成にどのように関わっているかについて考えられるようになる。（思考・判断・表現）
文学に見る行動心理	文科 専門教育科目 心理学コース	2	1・2	フロイト精神分析は大正期から心理学アカデミズムを中心に日本で紹介され、昭和初期には一大ブームを迎えた。こうしたフロイトをめぐる動きは、日本の文学にも大きな影響を与えた。人間の行動を心理のレベルで解釈する、新しい思想が精神分析だったからである。授業では、夢、無意識などをキーワードにして、芥川作品の分析を中心に人間の行動心理について学んでいく。	・日本近代文学に見られるフロイト精神分析の影響を、芥川龍之介を中心に明確に説明できるようになる。（知識・理解） ・心理学が文学に与えた影響をきちんと理解できるようになる。（知識・理解） ・心理学のキーワードを使って作品分析が具体的に出来るようになる。（知識・理解）	・日本近代文学に見られるフロイト精神分析の影響を、芥川龍之介を中心にある程度説明できるようになる。（知識・理解） ・心理学が文学に与えた影響をある程度理解できるようになる。（知識・理解） ・心理学のキーワードを使って作品分析がある程度出来るようになる。（知識・理解）
心理学卒業演習	文科 専門教育科目 心理学コース	2	2	卒業論文のテーマ決定・文献検索・書き方などを学ぶ。自分の問題意識を心理学研究の枠組みでとらえ、論文という形式で表現する技術を身につける。自分のやりたいテーマをどのように形にするかを学ぶ。前半は心理学の論文を読み、「論文」とは何かを学び、論文の書き方を身につける。後半は論文を作成する過程で、中間発表を行い、論文を洗練させていく。	・自分でテーマを見つけて卒業論文を完成させることができる。（関心・意欲・態度） ・論文の書き方、テーマの見つけ方、文献の探し方などの基本的な論文作成の技術を身につけることができる。（技能） ・客観的な心理学の分析の考え方を身につけることができる。（知識・理解） ・自分が決めたテーマについて心理学的な考察ができるようになる。（思考・判断・表現）	・教員の指導の下にテーマを見つけて卒業論文を完成させることができる。（関心・意欲・態度） ・論文の書き方、テーマの見つけ方、文献の探し方などの基本的な論文作成の技術をおおまかに身につけることができる。（技能） ・客観的な心理学の分析の考え方をおおまかに身につけることができる。（知識・理解） ・自分が決めたテーマについて心理学的な考察がおおまかにできるようになる。（思考・判断・表現）